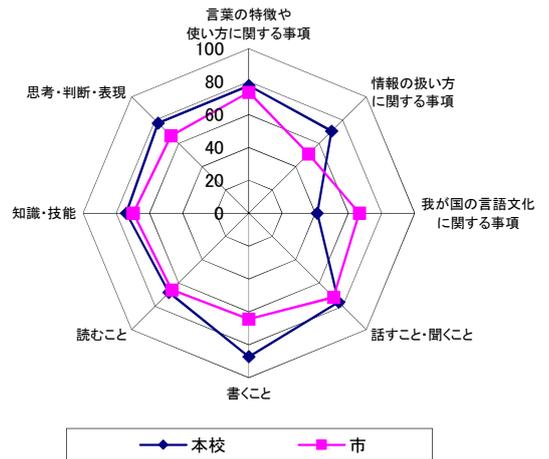


# 宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	77.5	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	70.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	41.2	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	76.5	72.3	73.7
	書くこと	87.3	64.3	66.6
	読むこと	68.1	65.8	64.9
観点別	知識・技能	73.9	69.8	70.8
	思考・判断・表現	77.5	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

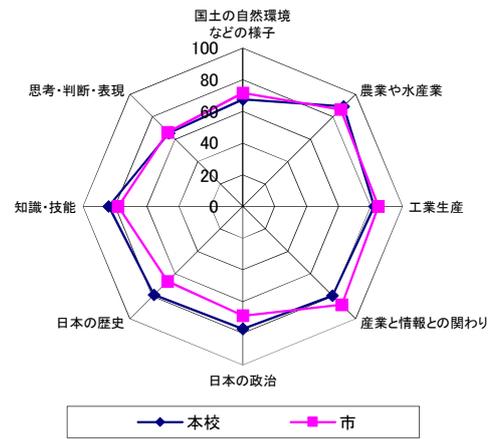
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は77.5%で、市の平均を4.0ポイント上回った。</li> <li>○三語の熟語の成り立ちについて理解しているかの問題では市の平均を19.6ポイント上回った。</li> <li>●敬語について理解し、正しく使う問題では、市の平均を7.5ポイント下回った。</li> <li>●5学年、6学年配当漢字を正しく読んだり書いたりすることには、個人差が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・今後も漢字の部首やつくりのはたらきを正しく理解できるように、例などを提示して、授業の中で随時取り入れ、学習できるようにする。</li> <li>・相手や場面に応じた敬語の使い方を考えさせる。また、相手の状況や気持ちに応じて言葉を選択することを、日常場面で指導する。</li> <li>・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習で取り組ませ、継続指導する。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は70.6%で、市の平均を19.6ポイント上回った。</li> <li>○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均を16.9ポイント上回った。</li> <li>○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、市の平均を22.2ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて文を書く活動や、お互い読み合う活動を意図的に設定する。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は41.2%で、市の平均を25.3ポイント下回った。</li> <li>●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかの問題では、市の平均を25.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語が日本独自の言葉だけでなく、和語、漢語、外来語に区別されていることを学習することで、日本語への関心や諸外国との関わりについても興味をもち、理解が深まるようにする。</li> <li>・語句の由来や使われ方を考えさせる学習を設定する。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は76.5%で、市平均を4.2ポイント上回った。</li> <li>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかの問題では、市の平均を6.5ポイント上回った。</li> <li>●インタビューの内容を聞き、話の内容を捉えているかの問題では、市の平均を2.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動や学校生活の中で、一つの議題をテーマにして話し合うような機会を設けることで、話の重要なポイントを聞き取れるように指導する。</li> <li>・スピーチやブクトーク等、情報を伝達する活動を行い、「話す・聞く」の育成を目指す。</li> <li>・話し合い活動を積極的に取り入れ、「話すこと」「聞くこと」の学習で培った、自由に話せる雰囲気や話し方、伝達方法を基礎として、文章の「読み」を深めることにつなげる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は87.3%で、市の平均を23.0ポイント上回った。</li> <li>○指定された長さで文章を書く問題と、自分の意見とその理由を明確に書く問題では、正答率が100%だった。</li> <li>○予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、市の平均を41.1ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事ごとに、気付いたことや感じたことを作文にしたり、テーマや文章の長さを設定して書いたりして、書く力の定着を図る。</li> <li>・「書く内容が見つけれない」「書き方が分からない」といった抵抗感をなくすために、文章の書き方の例を挙げて指導し、書くことへの自信をもたせる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は68.1%で、市の平均を2.3ポイント上回った。</li> <li>○説明文を読み、情報と情報との関係について理解し文章の情報を整理する問題では、市の平均を16.9ポイント上回った。</li> <li>●物語文を読み、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題では、市の平均を4.6ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の読み取りについては、内容をどう読み取るのか、文章から重要な言葉をどのように見つけたらよいかを指導していく。</li> <li>・「心情の読み取り」と「情景の読み取り」の力を付けられるよう多くの物語に触れたり、音読に力を入れたりしていく。</li> <li>・要旨を捉えるために、指示する語句や接続する語句に印を付けたり、キーワードやキーセンテンスに線を引いたりしながら、どの叙述に着目したのかを自覚できるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	67.6	71.6	69.6
	農業や水産業	89.2	86.7	83.7
	工業生産	82.4	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	79.4	87.7	77.4
	日本の政治	77.2	68.9	71.7
観点別	日本の歴史	78.7	66.7	66.3
	知識・技能	83.9	78.0	76.7
	思考・判断・表現	65.4	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

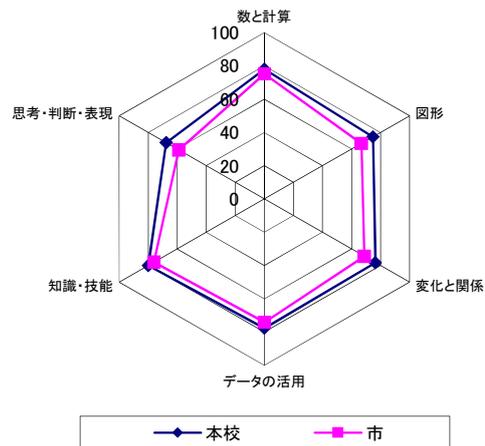
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は67.6%で、市の平均を4ポイント下回った。</li> <li>○世界地図の中から海洋の名前を選ぶ問題では、市の平均を9.8ポイント上回った。</li> <li>●日本の主な地形(湖)の名称を理解しているかの問題では、市の平均を15.2ポイント下回った。</li> <li>●国内の林業を抱える課題について考える問題では、市の平均を8.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も地図帳等の世界地図を活用する機会を多くもつことで、世界の地勢についての知識を身に付けられるようにする。</li> <li>●児童にとって林業が身近に感じられないことが原因と考えられる。市内や県内の林業についての事例を紹介したり、体験的な活動を取り入れるなど、林業についての興味関心を高められるよう工夫する。また、農業や漁業との共通点や相違点と比較しながら学習を展開する。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は89.2%で、市の平均を2.5ポイント上回った。</li> <li>○米の生産の工程についての問題では、市の平均を6.6ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の地域は米作りが盛んであり、田植え、稲刈り体験などの体験からも知識を身に付けることができたと思われる。今後も米作りをはじめとした農業についての知識・理解を高められるよう、地域人材を活用するなど体験的な学習を進める。</li> <li>●国内の米の生産地について正しく理解できていたことから、資料を読み取ることができたと考えられる。今後も、米作りの盛んな地域の気候や土地の特色・生産量との関係を考えてながら学習を展開する。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は82.4%で、市の平均を2.6ポイント下回った。</li> <li>○自動車の製造工程についての問題や工業製品の分類を理解しているかの問題では、市の平均を1.9ポイント上回った。</li> <li>●日本の工業の特色について、資料をもとに理由を記述する問題では、市の平均を11.6ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自動車の製造工程を正しく理解していたことから、設問の意図に合った答えを導き出すことができたと思われる。また、それぞれの工業製品と工業の分類の関係を正しく理解できていたことが分かる。今後も日本の工業の特色を捉えながら学習を進める。</li> <li>●日本の工業地帯の分布の特徴と、その理由を十分に理解できていないことが分かる。工業製品や原材料の輸送と工業地帯の場所を関連付けて考えられるような学習展開を工夫することで、より確かな知識を身に付けられるようにする。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は79.4%で市の平均を8.3ポイント下回った。</li> <li>●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均を11.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれのメディアについての特徴を十分に理解できていなかったことが原因と思われる。それぞれのメディアの情報伝達方法について、具体物を使って説明するなど学習方法を工夫する。</li> <li>●インターネットの危険性やルールについて正しい理解ができるよう、身近な事例を資料として活用したり、専門家による出前授業を行ったりするなど、情報リテラシー教育と連携を図りながら学習を推進する。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は77.2%で、市の平均を8.3ポイント上回った。</li> <li>○内閣の働きについて記述する問題では、市の平均を25.2ポイント上回った。</li> <li>●国民の義務にあたるものを選択する問題では、市の平均を2.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内閣と国会や国民との関係について正しく理解できていたことが分かる。歴史の授業等においても、現在の政治の仕組みと当時の政治の仕組みを比較する機会をもつなど、政治の制度についてより深く考えられるようにする。</li> <li>●権利と義務についての知識が曖昧だったことが原因と思われる。国民の三大義務について明確に理解できるように、資料の提示方法やワークシートを工夫しながら学習を進める。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は78.7%で、市の平均を12ポイント上回った。</li> <li>○元との戦いについて該当する答えを選択し、その理由を記述する問題では、市の平均を21.5ポイント上回った。</li> <li>○江戸幕府の鎖国の窓口について理解しているかの問題では、市の平均を33.2ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○元の襲来時に戦いが行われた場所や、北条時宗が築いた「石塁」について理解できていたことが分かる。今後も歴史的事象にある背景と、地理的關係を関連付けながら理解できるように学習を進める。</li> <li>●江戸幕府の鎖国や、外国との貿易の窓口について正しく理解できていたことが分かる。今後も鎖国を行った理由と貿易相手国との関係性を考えられるよう学習を展開することで、当時の外国とのつながりを深く理解できるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.9	75.1	75.8
	図形	74.7	66.8	68.3
	変化と関係	76.5	68.8	65.0
	データの活用	77.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	79.9	76.1	75.8
	思考・判断・表現	67.6	59.0	51.7



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

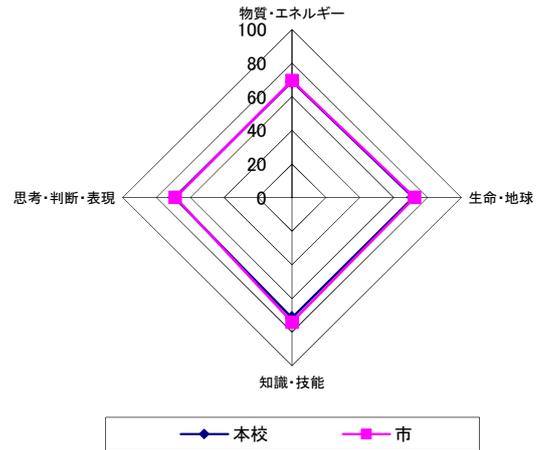
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は77.9%で、市の平均を2.8ポイント上回った。</li> <li>○小数の計算で、小数第一位×小数第一位の計算では、市の平均を19.2ポイント上回った。</li> <li>○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題では市の平均を10.2ポイント上回った。</li> <li>●分数の計算で、真分数+真分数=仮分数で片方の分数にそろえて通分する計算では、市の平均を8.9ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、文章題から式を導き出す問題に取り組む機会を増やしたり、図と式を関係付けて考えたりするなどの思考力向上に努める。</li> <li>文章から数量の関係を数直線に書き表すことに努め、図と式を関連付けた思考ができるようにする。</li> <li>分数の意味や大きさに着目させ結果の大きさを見積もらせたり、通分を用いて計算したりすることの理解が深まるよう、繰り返し学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は74.7%で、市の平均を7.9ポイント上回った。</li> <li>○対称な図形で、線対称と点対称について理解し、既習の図形から線対称でも点対称でもある図形で選んでいるかの問題では、市の平均を45.9ポイント上回った。</li> <li>○正六角形の作図方法から、円の中心の回りにできる角の大きさを求める問題では、市の平均を15ポイント上回った。</li> <li>●面積と体積で角柱の体積を求めることができるかの問題では、市の平均を16.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体積の求め方を考えたり、公式を導いたりする過程を繰り返し指導していく。底面の形が様々な多角形の場合でも、角柱・円柱の体積は、底面積×高さで求められるという公式をおさえていく。</li> <li>図形を構成する要素や図形の合成や分解を視覚的に捉えられるように、引き続きICT等も活用した授業を行う。</li> <li>授業の始めに既習内容の確認し、問題に取り組むようにする。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は76.5%で、市の平均を7.7ポイント上回った。</li> <li>○単位量当たりの大きさや速さ、割合とグラフ共に全て市の平均を上回った。</li> <li>○表から面積と数の割合を求め、どのにわり小屋が最も混んでいるかを考察する問題では、市の平均を11.9ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、数直線などの図を活用して理解できるように指導していく。</li> <li>割合は私たちの身近な生活の中で用いられていることを理解させるとともに、基準量と比較量から割合を求める問題など、様々な問題に数多く取り組む機会を増やし、より確かな力がつくようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は77.7%で、市の平均を3.6ポイント上回った。</li> <li>○平均・データの見方で、走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題では、市の平均を18.7ポイント上回った。また、中央値を求める問題では、市の平均を12.7ポイント上回った。</li> <li>●問題の場面を理解し、4日間走った道のりの平均から2週間に走ると考えられる道のりを求める問題では、市の平均を15.1ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を読み取り、情報を整理したり問題を解決するために必要な条件を考えたりして、平均などの既習事項を活用することで問題を解決できるよう指導する。また、算数の学習が日常生活に活用できるよさをとらえさせ、活用力を育む。</li> <li>児童が興味関心をもって問題に取り組めるよう、他教科の教材や実際の資料等も活用し、教材の提示や指導の方法を工夫する。また、読み取ったことを説明する機会を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.0	69.5	65.2
	生命・地球	71.5	72.3	70.1
観点別	知識・技能	71.5	74.0	70.7
	思考・判断・表現	69.4	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は69.0%で、市の平均を0.5ポイント下回った。</li> <li>○水溶液を熱すると固体が残ったことから、どの水溶液であるかを推測する問題では、市の平均を11.1ポイント上回った。</li> <li>●「ふりこのきまり」の周期を求める問題や同じ周期になる条件を求める問題では、市の平均正答率を約10ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1往復とは」、「1往復する時間の求め方」、「1往復する時間を変える条件」など基本的な内容について、実験を振り返りながら確認する。</li> <li>・図を見比べ違いを見分けたり、条件の違いを理解できるよう順序立てて考えたりする習慣を付ける。</li> <li>・理科学的な知識の定着と思考の高まりを図れるように考察の時間を十分に取り、言葉や文章で説明できるようにする。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は71.5%で、市の平均を0.8ポイント下回った。</li> <li>○「植物のつくりとはたらき」の予想をもとに根の断面図を推測する設問では、市の平均を10.5ポイント上回った。</li> <li>●侵食について理解しているかを問う問題では、市の平均を20.7ポイント下回った。また、流れる水の量が増えたときの水の速さの変わり方についてを問う問題では、市の平均を14.8ポイント下回った。</li> <li>●「月と太陽」の実験から、万葉集の和歌がよまれたときの月の形を推測する問題では、市の平均を15.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の結果から、結果を比較したり考察したりできるように、話し合い活動を充実させ、科学的な思考力を育てる。</li> <li>・自然現象とそれらに関する語句を理解させるとともに、実験や動画資料等を活用して自然現象のエネルギーについて理解できるようにする。</li> <li>・月と太陽の位置関係のモデル実験については、位置関係や月の形が変わって見える理由を理解できている。しかし、それを自分たちの生活場面と結び付けられていないため、日頃から月や星などを眺めたり、自分なりに調べたりする学習ができるよう、家庭の理解を得る。</li> </ul>

## 宇都宮市立平石北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科において基礎・基本内容を確実に習得し、得られた知識・技能を活用しながら課題探究学習に取り組み、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	『対話的活動を効果的に取り入れた授業づくり』 ・一人一人の気付きや考えを伝え合える学習形態の工夫 ・読解力（語彙力）の育成のために学校図書館司書と連携した読書活動の充実 『日常的な「書く」活動の充実』 ・朝の活動時に「国語タイム」を実施 ・読み聞かせ後の感想文や行事作文 ・資料活用能力の育成を図るため、授業と連携した図書資料の活用	学習形態の工夫を図り、自分の考えを伝達したり表現したりする場を設けてきた。また、学校図書館司書と連携を図り、図書資料も活用して情報を得る授業の展開も行ってきた。6年生は、国語科において根拠を基に自分の考えを表現する力がついてきたが、算数科において数学的根拠を基に説明する力に課題がみられた。 アンケートの結果から、家庭で本や新聞を読む時間は、市の平均より下回った。学年が上がるにつれスマートフォン所持率が上がり平日の使用時間も増え、書籍離れの傾向が伺える。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・宇都宮モデルを意識した授業を行ってきた。すべての教科において、4年生は県や市の平均を下回る結果となったが、5・6年生は国・県・市の調査結果と比してほぼ同じ結果となった。学校課題と併せ、読解力（語彙力）の育成、書くこと、情報活用能力の育成に力を入れてきた。自分の考えをまとめ整理する力などに課題があったが、学習内容定着度調査の6年生国語「理由を明確にして自分の考えを書く」問題では正答率が100%であり、自分の考えを言語化する力が育ちつつある。しかし、全体的に思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題が残る傾向にあるので、各教科において基礎・基本内容の習得を目指し、得られた知識・技能を活用するような学習を意識することで、思考力・判断力・表現力等の育成を図っていききたい。また、十分に定着していない内容を洗い出し、フォローアップ問題やAI型学習等を計画的に活用したり、学力向上担当と密に連絡を取り合い、基礎・基本の習得に努める。また、情報・資料活用能力が育成できるような学習や活動の場を設定し、発展的且つ補充的学習の定着を目指していききたい。

・国・市の調査において、「勉強が好きか。」という設問の肯定的回答の割合が市の平均を下回る学年があった。また、休日の家庭学習の時間や読書時間の肯定的回答も学校全体として市の平均を下回る結果であった。次年度も引き続き学習のねらいを共有し、単元を通して学びを自覚する振り返りの時間を確保していききたい。

・次年度は、学校図書館を「読書センター・学習センター・情報センター」機能として活用できるよう、学校図書館司書と連携を図る。また、読書の質の向上を目指すとともに、発達段階に応じた語彙力や表現力が伸ばせるよう計画的に授業展開をしていきたい。